

5月26日アナリスト向け決算説明会 質疑応答（2023年3月期決算）

- Q. 23年3月期実績の一過性の収益または費用の有無について伺いたい。
- A. 米国のシート事業においてサプライチェーン維持のための費用として11億円を計上している。これはコロナ禍において経営状態が悪化したサプライヤーに対する支援費用である。
- Q. 原材料高騰に伴う回収について、実績と計画について教えてほしい。
- A. 原材料価格の高騰影響については、23年3月期の実績では販売価格への転嫁と、購入の額はほぼ同額となっており回収をしている状況である。ただし、エネルギーコスト等のインフレによる高騰影響については、23年3月期では半分程度の回収にとどまっております。24年3月期ではその分と今期上がる分を含めて全額回収を目指し予想に織り込んでいる。
- Q. 24年3月期のカーメーカー各社の自動車生産台数をどのように計画に織り込んでいるのか教えてほしい。
- A. お客様が想定している生産台数に10%程度の減産リスクを織り込んでいる。
- Q. 懸架ばねの取り組みはいつから成果が出てくるのか教えてほしい。
- A. 価値向上という本質的な部分は時間がかかる。設計段階から話していく必要があり、3~4年後の25~26年に成果に結び付けたい。
- エネルギーコスト等のインフレによる高騰分の未回収分を価格転嫁し、24年3月期は黒字化を目指す。
- 生産の多拠点化は既に準備を進めており、今期中にお客様から承認を得られるよう進める。生産現場の勤務シフトを3直から2直にすることについては来期中を見込んでいる。
- Q. 懸架ばねの価値を自動車メーカーに認めてもらう活動について、勝算があるのか教えてほしい。
- A. 設計や製造技術によって軽量化する等、モデルチェンジや設計変更時に説明をして価値を上げていく。最近では軽量化や耐久性に加えて耐蝕性などの新たな要求も出てきており、それに応えるための改良も行っている。さらに、従来にない形状の懸架ばねも開発中でありチャンスはある。

Q. バッテリーEVが増えると車重は重くなるが、懸架ばねの付加価値を上げるチャンスがあるのか教えてほしい。

A. 車重が重くなると懸架ばねは太くなる。しかし、バッテリーを積むために懸架ばねのスペースが限られてしまい、懸架ばねに対する要求は過酷になる。過酷な要求になればなるほど当社にとっては付加価値を上げるチャンスになる。

シートにも同様のことが言える。バッテリーはシートの下に入るので、シートの薄型化が求められる。シートを薄くしてもお尻が痛くならない乗り心地の良いシートが求められることは当社にとってはチャンスである。

Q. SUBARU プロジェクトの背景を教えてほしい。

A. 数年前にSUBARU様から満足度が下がってきているという情報が入ったため、すぐにSUBARU様向けの設計部をつくり、人や設備を投入し対応してきた。今回、プロジェクトと銘打ち更なる関係性の強化を図る。

Q. モーターコアの競争状況について教えてほしい。

A. 先行する他社に追いつき追い越せというのは難しいが、同等のレベルになるためには膨大な量を生産できる能力が必要である。また、お客様に応じた様々な種類のモーターコアを生産するための技術開発も必要である。既にこの技術開発の段階は済んでいるため量産となるかどうかはお客様次第という状況である。当社のターゲットは、ハイスペックのモーターコアが中心であり、販売価格が安いモーターコアではない。

Q. モーターコアの売上について、上乗せ余地があるのか教えてほしい。

A. 2030年まではある程度の道筋が見えている。現状では日産グループ様以外の受注はないが、他のお客様とも開発を進めており開示できる時期が来たらお話ししたい。

市場としては、モーターコア需要の拡大ペースが早くなっており、売上を上乗せできるよう準備を進める。

Q. 半導体プロセス部品について、お客様からどのような話が来ていて、今後どのような手を打つのかなど、どのような会話をしているのか教えてほしい。

A. 生産能力を増強して欲しいというリクエストを頂いている。現在の生産調整がいつまで続くのか、今後どのような流通状況になるのか等について良く話し合い、体制を整えていきたい。

- Q. AI サーバーが増えるとハードディスクドライブ（以下、HDD）はどうなるのか、今後の期待と心配事について教えてほしい。
- A. 20年ぐらい前からHDDはなくなるかもしれないと言われて続けてきた。世界的なデータ総量は増大傾向であり、データセンターにおけるHDD需要は長期的に成長傾向にある。たとえHDDの代替技術が出て実用化には時間と費用がかかるため、コスト面において競争力のあるHDDは、現在のポジションをある程度維持できると考えている。
- Q. 株主還元、PBRI倍未満に関してニッパツの考え方を教えてほしい。
- A. PBRI倍割れへの対応としては、まず稼ぐ力を高めることが最重要と考えている。次期中計では、事業戦略に加え資本コストの考え方や財務目標等についてもあわせて検討する。

以上